

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日

2025年 7月31日

テーマ「デジタル・ライブラリーの構築」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)大学図書館長
難波 功士
(大学図書館)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略（テーマ名）	統轄部署
8 学校経営	(14) デジタル・ライブラリーの構築	大学図書館

内容

急速なデジタル環境の進展に対応し、本学の教育・研究の基盤としての大学図書館をアップデートする必要がある。そこで、デジタル・ライブラリーの機能を強化する。デジタルコンテンツを維持・充実させるとともに、DXを推進しスマート・ライブラリーを実現する。さらに、デジタル・ライブラリーの機能を活用し「知の交流拠点・創造の空間」を構築し、物理的な場としての図書館の意義をさらに高めていく(ライブ・ライブラリー)。また、デジタル・ライブラリーを構築・運営するための人材確保・育成を計画的に行う。

(デジタルコンテンツの維持・充実：電子ジャーナル・パッケージの維持と電子ブックの充実)

インターネットを介して購読する電子ジャーナルは、地理的な制約がなく、世界中の最新の研究成果に迅速にアクセスできる。また電子ジャーナルは通常、査読済みの論文を公開しており、信頼できる情報源から情報を得ることができる。また、検索エンジンで簡単に検索できるため、特定のトピックやキーワードに関連する研究を見つけるのが容易であり、これにより、関連する文献を迅速に収集し、研究に活用することができる。さらに、電子ジャーナルは通常、他の文献や関連する情報へのリンクを提供しており、研究者は簡単に他の研究との関連性を把握し、文脈を理解することができる。このように電子ジャーナルは研究者にとって情報のアクセス性、品質、効率性を向上させ、研究活動を促進する重要かつ必須のツールである。デジタルコンテンツの充実のため、研究基盤として必要不可欠な電子ジャーナル・パッケージの維持を図る。大学への通学が困難となったコロナ禍において、大学図書館に来館しなくても利用することができる電子ブックの利用が拡大した。コロナ禍以降も継続して利用者が増加しており、需要の高まりに応え、電子ブックを充実させるとともに、サブスクリプション、オンデマンドコンテンツの充実を図る。

(スマート・ライブラリー：DXの推進による利用者サービスの向上・業務の効率化)

館内施設・設備のオンライン予約、手数料支払いの電子マネー化、入退館システムの更新による学修データの可視化と業務効率化、自動貸出機・返却機等の導入によるOA化、チャットボットによるAIレファレンスの導入、自動化書庫第二期工事、図書システムと財務システムの連携等、順次実施し、利用者への便宜を図るとともに、学修成果の可視化、業務の効率化を実現するために、本大学図書館運営や各種サービスをDXにより進化させスマート・ライブラリーを実現する。

(ライブ・ライブラリー：デジタル・ライブラリーの機能を活用した「知の交流拠点・創造の空間」)

利用サービス部門については、貸出・返却や簡素な窓口対応は委託事業者に業務委託をしている。利用サービス部門の専任職員を強化し、スマート・ライブラリーの構築と並行しながら、「知の交流拠点・創造の空間」としてのライブ・ライブラリーの企画を行い実施する。

利用者にとって「学び」が生活や人生の一部になるよう取り組むことがライブ・ライブラリーの主題であり、デジタル技術を活用したライブ・ライブラリーの環境を整備しつつ、老朽化・陳腐化・狭隘化した施設・設備をアップデートし、快適な学修環境を提供することは重要な要素である。

他の大学では志願者に向けた訴求のために大学図書館をリニューアルして公開しており、施設・設備も多目的でバラエティに富んだ充実した内容となっている。一方で、本学大学図書館については竣工より30年が経過し

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日

2025年 7月31日

テーマ「デジタル・ライブラリーの構築」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)大学図書館長
難波 功士
(大学図書館)

施設・設備の陳腐化が見られるとともに、当初のコンセプトは滞在型図書館としてアメニティを重視したものであったにも関わらず、もはや滞在型図書館としてのアメニティが十分とは言えない状況にある。実際に大学図書館利用者調査においても、椅子やソファなど什器のアップデートや、他大学がすでに設置しているカフェスペースなど、飲食の提供エリアについても、要望が示されており更新が必要である。第三期フェーズ以降の実現に向けて、2025年度から大学図書館施設リノベーション計画を立案していきたい。

【現状の補足】

- ・電子ジャーナルについては、恒常的な値上がりへの対応として、2025年度まで予算化される見込みである。なお、これとは別にドル払いの資料の円安対応のための予算措置がなされている。
- ・電子ブックについては、紙媒体の資料の三倍の価格となっている。電子化される時期が遅いため、年度末に予算状況をにらみながらまとめて契約を行っている。

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日

2025年 7月31日

テーマ「デジタル・ライブラリーの構築」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)大学図書館長
難波 功士
(大学図書館)

指標 1

指標	内容					
指標名	主要電子ジャーナルパッケージ利用度					
定義・算式	主要電子ジャーナルパッケージアクセス数					
現状値 (指標設定時)	2023 年のアクセス数 385,161					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	—		—		468,300	
実績値	2019 年度	—	2022 年度	—	2025 年度	424,700 (予測値)
	2020 年度	—	2023 年度	—	2026 年度	446,000 (予測値)
	2021 年度	—	2024 年度	—	2027 年度	468,300 (予測値)

指標 2

指標	内容					
指標名	電子ブック利用度					
定義・算式	電子ブックアクセス数					
現状値 (指標設定時)	59,717 2023 年度電子ブック利用統計の実績値(主な電子ブックのプラットフォームのアクセス数)					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	—		—		65,000	
実績値	2019 年度	—	2022 年度	—	2025 年度	62,000 (予測値)
	2020 年度	—	2023 年度	—	2026 年度	63,500 (予測値)
	2021 年度	—	2024 年度	—	2027 年度	65,000 (予測値)

指標 3

指標	内容					
指標名	施設・設備の充実度					
定義・算式	学生調査 施設・設備の充実度 図書館 「充実していると思う」の比率					
現状値 (指標設定時)	2023 年度学生調査の結果 「図書館の施設は充実している」に対して(全体) 「そう思う」69.0%、「どちらかといえばそう思う」22.7% 合わせて 91.7%					
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度)		フェーズ 2 終了時 (2024 年度)		フェーズ 3 終了時 (2027 年度)	
	—		—		合わせて 93%	
実績値	2019 年度	—	2022 年度	—	2025 年度	92% (予測値)
	2020 年度	—	2023 年度	—	2026 年度	92.5% (予測値)
	2021 年度	—	2024 年度	—	2027 年度	93.0% (予測値)

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日

2025年 7月31日

テーマ「デジタル・ライブラリーの構築」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)大学図書館長
難波 功士
(大学図書館)

指標 4

指標	内容
指標名	ライヴ・ライブラリー「知の交流拠点・創造の空間」参加者数
定義・算式	ライヴ・ライブラリー関連企画への参加者数
現状値 (指標設定時)	2023 年度の実績: Library Cinema 春 48 人、秋 72 人 KSC Library Cinema 春 25 人、秋 9 人 Library Workshop 41 人 Library Concert 約 100 人 合計 295 人
目標値	フェーズ 1 終了時 (2021 年度) フェーズ 2 終了時 (2024 年度) フェーズ 3 終了時 (2027 年度)
	— — ライヴ・ライブラリー関連企画 参加者数 500 人 (全館)
実績値	2019 年度 — 2022 年度 — 2025 年度 300 人 (予測値)
	2020 年度 — 2023 年度 — 2026 年度 400 人 (予測値)
	2021 年度 — 2024 年度 — 2027 年度 500 人 (予測値)

2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	帳票の 有無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① デジタルコンテンツの 維持・充実	大学図書館	必要なし	無									
② スマート・ライブラリー: DX の推進による利用 者サービスの向上・ 業務の効率化	大学図書館	必要なし	無									
③ ライヴ・ライブラリー: デジタル・ライブラリー の機能を活用した 「知の交流拠点・創造 の空間」	大学図書館	必要なし	無									
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ① 電子ジャーナル・パッケージの維持
- ② 電子ブックの充実
- ③ DX の推進による利用者サービスの向上・業務の効率化 (スマート・ライブラリー) 以下、順不同
 - 1. 館内施設の利用予約デジタル化
 - 2. 入退館システムの更新による学修データの可視化と業務効率化
 - 3. 図書システムと財務システムの連携
 - 4. 手数料支払いの電子マネー化
 - 5. 自動貸出機・返却機等の導入による O A 化
 - 6. チャットボットによる AI レファレンスの導入
 - 7. 自動化書庫第二期工事
- ④ デジタル・ライブラリーの機能を活用した「知の交流拠点・創造の空間」ライヴ・ライブラリーの構築

※ロードマップ策定作業用記号

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「デジタル・ライブラリーの構築」

提出日 2025年 7月31日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	大学図書館長 難波 功士 (大学図書館)
-----------------------	----------------------------

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計（2019 年度～2027 年度）

◆フェーズⅠ：2019 年度～2021 年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019 年度	2020 年度	2021 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

◆フェーズⅡ：2022 年度～2024 年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022 年度	2023 年度	2024 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

◆フェーズⅢ：2025 年度～2027 年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025 年度	2026 年度	2027 年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計（経費＋人件費）			

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019 年度	－
2020 年度	－
2021 年度	－
2022 年度	－
2023 年度	－
2024 年度	電子ジャーナルパッケージ：値上がり対策として予算化が認められており、2026 年度以降三年間（契約が三年単位）について予算確保が必要となる。 電子ブック：利用数は増加しているが、購入については予算残余を充当している。 スマート・ライブラリー：インターネットを活用したリモート会議・面談に活用するための個別ブースを導入予定。利用者数の把握が必要となる。インターネットによる施設・設備の予約についても大学図書館独自でスタートする。その他、年次の整備が求められる。 ライヴ・ライブラリー：前年度実施したライヴラリー・シネマ等の企画を引き続き実施するほか、ライブラリー・セミナーとして新刊図書等の著者を招いた講演を開催する等、「知の交流拠点・創造の空間」としての企画を計画する。
2025 年度	電子ジャーナルパッケージ：値上がり対策として予算化が認められており、2026 年度以降三年間（契約が三年単位）について予算確保が必要となる。 電子ブック：利用数は増加しているが、購入については予算残余を充当している。 スマート・ライブラリー：インターネットによる施設・設備の予約についても大学図書館独自でスタートする。その他、年次の整備が求められる。

I . 長期戦略テーマ別帳票

提出日2025年 7月31日

テーマ「デジタル・ライブラリーの構築」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	大学図書館長 難波 功士 (大学図書館)
-----------------------	----------------------------

	ライヴ・ライブラリー：①上ヶ原大学図書館全館のリノベーション構想を策定する。②前年度実施したライヴラリー・シネマ等の企画を引き続き実施するほか、ライブラリー・セミナーとして新刊図書等の著者を招いた講演を開催する等、「知の交流拠点・創造の空間」としての企画を計画する。
2026 年度	
2027 年度	